

【大きな活字で読みやすい本】

# 故事情物語

シリーズ

全16巻

河出書房新社

特選 生きる心の糧

時代を越えた  
超ロングセラーの大活字版

# 大きな活字で 読みやすく、 いわれを聞けば、

## ありがたや

・インタビュー

## 永六輔

えいろくすけ

すればいいというのは問題ですね。

たとえばこの本の中に、今までの大活字本だとこういう大きさ、こういう行間だが、こういうふうに読みやすくしてありますという科学的なデータが欲しいんです。

この本は今までのただ活字の大きい本とはちょっと違いますよ、こういうふうにしてありますよっていうところですね。

そうなると僕らも、ああ、ほんとがありがたいなと思うわけ。

——我々もそういう科学的な根拠といわれるところまるのですが、ただ、これまでの経験値で、図書館などでこのくらいの大きさがすらすらと読める、ということです。今度の本をつくっているわけです。それに文字は「存じ」のように大きさだけじゃないですね。たとえば字間の問題とか、正体の活字と平べったい新聞活字みたいなもの、詰まっているようなものは非常に読みにくいでしょ。この本の場合には本文の字間をゆつたりととり、ノンブルなども字間をかなりあけて、読みやすいうところだけで、実際にこのくらいにすれば人が読むかな、という部分

永 ぼくは前にも大きな活字の本のお手伝いをしたことがあるんですが、そのとき担当の方に「なぜ大きくするんですか」と訊ねたんです。するとかならず、「老人の目にやさしい」ということばが返ってくるんです。しかし、このやしさについてのには科学的な裏付けが必要だと思うんです。やさしいんだったら、もつと大きくしてくれればもつと助かるのにという人がいるわけですよ。

これはラジオの場合も同じことが言えるんですけど、耳の遠い人は音量を上げ

永 何でそのことを言うかというと、そういうことを研究している方たちがいて、それは岩波書店が調べたんですけど、たとえば僕の本『大往生』は多くの高齢者が読んでるんですね。つまり、本来なら大きな活字にしなきゃいけないんだけど、そうじやなくてもあれは読みやすいとい

うんですね。

つまり、字は大きくないんだけど徹底して字数が少ないわけだし、中には真っ白みたいなページがあるわけですね。そうすると、そのほうが高齢者にとってはやさしいと言われる。じゃあ字を大きくするっていうのは何なんだろうっていうことがあるんですね。

——本のスクリーンでの空間ということがやつぱりすごく大事なんですね。ぎつしり詰まっていると、お年寄りには非常に読みにくい。あの『大往生』の場合も、改行を多くしたり、白のスペースが多いですね。今度の本の場合でも、お年寄り、障害者だけでなく、若い人、中高生も対象としていろいろ考えました。ところで、この本の内容のほうに移りたいんですけど、年中行事ですか風俗

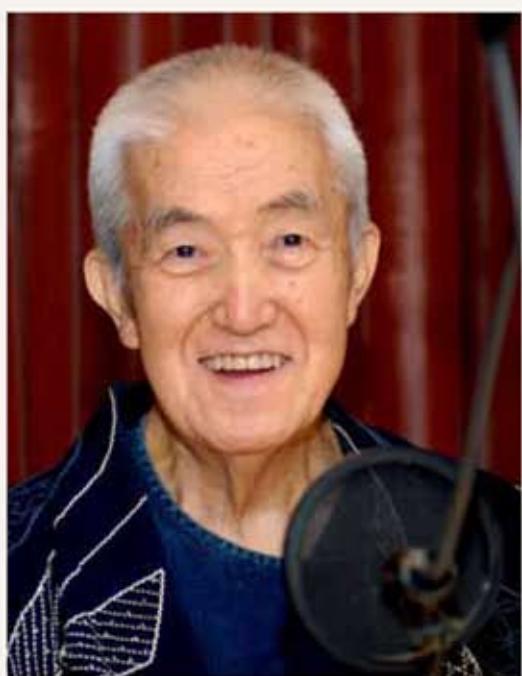
習慣やことわざ、名言とか、こういうことの故事来歴の楽しみというようなことについてうかがいたいのですが。

永 僕はラジオの仕事をしていますから、ラジオの上でいろんな問題とか、故事来歴は特にですが、何かにつけて出てきますよね。それからいただく投書とか、かかるてくる電話の中にも、それは本当はこうなんだとか、どこにこういうふうに書いてあるというのが、僕の場合、ワード番組ですから、朝疑問を投げかけておくと昼過ぎにはどんどんわかってくる

ということをやつてますのでね。

言つてみれば、こういう故事に類する本がスタジオいっぱい置いてありますので。

もう一つ言うと、「こども電話相談室」というのも僕は三十年やってますから、この手の本はありがたくて、もちろん役に立つことなんだけど、おばあちゃんの中では、八十五歳ぐらいかな、放送をやつてると必ず最後に電話がかかってくるんですよ。



中井征勝撮影

その電話がかかってきたときに、おしゃれな呪文のように「いわれを聞けばありがたや」、ああきょうもいい放送でしたっていう、その「いわれを聞けばありがたや」っていうのが我々のスタッフの中にはやり言葉になつたことがあるんであります。

その先があるのね、そのおばあちゃんに言わせると。つまり世の中、何でもないことは何でもなく終わっちゃうんだけれども、どんなことでも「いわれを聞けばありがたや」っていう、それがまさにこの本のキヤツチフレーズで、「大きな活字で読みやすく、いわれを聞けばありがたや」と(笑)。

# 故事物語シリーズ

全16卷

刊行のことば

## 特選 生きる心の糧

昔から伝えられている由緒ある事柄に学ぶ——歴史に学ぶことが、いまもつとも求められている、といつてもいいでしょう。一つの故事、一つの言葉にこめられた歴史の堆積、英知の蓄積を知ることで、今日わたくしたちの生きている時代の様相が、歴史と重なり、新しい姿となつて現れる——そうした発見の楽しさもそこにはあります。

「故事物語」シリーズは、今を去る約六十年前、昭和三十一（一九五六）年に刊行された『中国故事物語』『日本故事物語』の一冊によつて始まりました。「他山の石……」、知つてゐるようで意外と知らない言葉の真の意味。それにこめられた古人の英知を知ることは、今とかわらず当時も新鮮な驚きでした。以来、多くの読者の求めにより、数度の増補・改訂を経て、時代を超えたロングセラーとなりました。

今回の大活字本のシリーズは、読書を楽しみにしている高齢者の方々に、本文を読みやすい大活字で提供するため、各巻をテーマ・時代別に再編成したものです。

人生の意味、生きる歓びを再発見するうえでふさわしい内容の「故事物語」シリーズは、若い世代の方にとつても日々の心の糧として、また未来への指針として、無限の宝庫となることでしょう。

## 詩句

### 国破れて山河在り

これは、唐の杜甫（712～770）の五言律詩「春望」の最初の一句である。杜甫が仕官という年来の希望がかなつて右衛率府胄曹參軍なる官職を与えられたのが四十三歳のときであつた。どうにか希望がかない、これから安定した生活ができると思った矢先に、突如、安禄山が反乱を起こした。

安禄山は北東方の節度使として十八万を越える兵力を握り、いまの

① 中国故事物語 1

秋の扇

紅一点

月下水人

飛んで火に入る夏の虫

蝴蝶の夢

断腸

羽化登仙 他

② 中国故事物語 2

目に一丁字なし

千里眼

白眉

口なお乳臭あり

独眼竜

五里霧中

酒は百薬の長 他

③ 中国故事物語 3

国破れて山河在り

天高く馬肥ゆ

白髪三千丈

曲学阿世

汗牛充棟

他山の石

⑦ 中国名言故事物語 1

胸に成竹あり

可も無く、不可も無し

渴しても盗泉の水は飲まず

君子の交わりは淡くして水の如し

滄海変じて桑田となる

老いては駒驕も駿馬に劣る

人生は白駒の隙を過ぐるが如し 他

⑪ 日本故事物語 2

負うた子に教えられて浅瀬を渡る

岡目八目

お土砂をかける

鐘に恨み

苦界

くわばらくわばら

恋は曲者 他

⑫ 日本故事物語 3

さわらぬ神にたりなし

三千世界

地獄の沙汰も金次第

末の松山

千秋楽

袖の下を使う

遠くて近きは男女の仲 他

⑬ 日本故事物語 4

泣かぬ螢が身をこがす

生麦生米生卵

なまりは国の手形

飲む打つ買うの三拍子

ひとつ釜の飯

坊主丸もうけ

牡丹に唐獅子竹に虎 他

【大活字】  
故事物語  
シリーズ(全16巻)  
特選 生きる心の糧

## ④ 中国故事物語 4

過ぎたるは及ばざるがことし

君子に三樂あり

無為にして化す

小人閒居して不善を為す 他

## ⑤ 中国故事物語 5

騎虎の勢

乾坤一擲

虎視眈々

旁若無人

隱然

百發百中

天衣無縫 他

## ⑥ 中国故事物語 6

肝胆相照す

水魚の交

竹馬の好

三顧の礼

桃園に義を結ぶ

一将功成りて万骨枯る

背水の陣 他

## ⑧ 中国名言故事物語 2

始めは処女の如く、後は脱兎の如し

往く者は諫むべからず

子孫の為に産業を立てず

衣食足りて礼節を知る

読書百遍、義自から見わる

悪酒は悪人の如し

青春・朱夏・白秋・玄冬 他

## 漢詩故事物語

寺尾善雄著

## ⑨ 漢詩故事物語

黄河の水、流れて尽くる時無し

千里の江陵、一日に還る

雲は泰嶺に横たわりて、家、

何くにか在る 他

## ⑩ 日本故事物語 1

池田弥三郎著

## ⑯ 百人一首故事物語 2

なげきつつ……  
あらざらむ……  
めぐりあひて……  
夜をこめて……  
来ぬ人を……  
人もをし……

## ⑮ 百人一首故事物語 1

## 百人一首故事物語

池田弥三郎著

三つ違ひの兄さんと  
みんな主への心中立て  
むすめふさほせ

目に青葉

桃栗三年柿八年

物臭太郎

柳は緑、花は紅 他

## ⑭ 日本故事物語 5

# 故事物語 シリーズ

全16巻セット

特選 生きる心の糧

大きな活字で  
読みやすく、  
高齢者から  
若者たちまで、  
人生の意味、  
生きる心の糧を  
再発見するための  
最良のシリーズ！

大きな  
活字で読み  
やすい本



故事物語シリーズ（全16巻） 摘本体 **59,200円** +税 分売不可

ISBN 978-4-309-61570-7 ◎A5判上製・本文20級（14点）・31字詰×12行・平均230頁 ◎発行 河出書房新社